

か。景教三威蒙度讚に於ては、その最初に「敬禮妙身皇父阿羅訶」と記して、神のことを阿羅訶と言ひ、景教碑にも同様に「无元眞主阿羅訶」と言ふてゐる。阿羅訶は即ち Elohah であるが、此の語とイスラエルの神として知らるゝ *Yehova* とが相通じて用ひられて居ることは、好く知らるゝ通りである。^⑥ 序娑は此の儘では *Yehova* に對する適當な形とは思はれないが、然も此の殘卷に於ては、文字の誤寫は至る所に認められること前述の如くであるのみならず、元來「娑」が「婆」の誤寫なる場合は、佛典その他の古寫本を扱つた人には、極めて普通の事と承認される次第であるから、此の場合にも或は之が序娑の誤でないかと考へて見なければなるまい。若し、そうだとすれば、序の中古音は *zivo* であつたらうし、其の原音なる「予」も、古くは *zpa* の始發音を有して居つたであらうが、然も「予」は我が國音 *yo* に於て認めらるゝやうに、中古音に於て既に *ivo* とパラライズされて居ること、^⑦ 恰も祥と羊とに於るが如きである。この相違は同一音の發達の階段を異にしたものに過ぎないので、兩者相近い音である事は言ふまでもない。さてこの始に *z* 音を有した文字で *y* 音を初に有する語を寫すことは屢ある例で、^⑧ 此の殘經の中にも後に述べるやうに、*Jordan* を寫すのに「述難」の二字を用ひて居る。これらの例から考へれば序 *zivo* もまた *Yehova* の *ye* を寫すのに用ひられたものと見て差支なからうかと思ふ。娑が *va* を寫すに適當な文字であることについては、今更に例を掲げて證明するまでも無からう。かく見ることに於て不都合無しとすれば、此の一句は即ちメシヤがエホバ神の法を説いて云はくと記したもので、以下説示せる教理の論述の冒頭として、適切なるものかと考へる。併しながら此の考は、序娑といふ語にもしそのまゝに適當な解釋が加へ得らるゝならば、固より支持せらるべきものでは無い。序聽といふ語については、亦た便宜後に述べる。